

社会動向と市の現状

1. 全国的な人口減少社会の到来

- ◀全国▶
 - ◎**少子高齢化**の進行により、我が国の総人口は2008年をピークに減少
 - ◎**生産年齢人口**（15～64歳）も1995年をピークに減少

- ◀裾野市▶
 - ◎2015年以降、**減少**に転じている
 - ◎0～14歳の**年少人口**、生産年齢人口（15～64歳）は2000年をピークに減少
 - ◎**高齢化**が加速的に進んでいる（2015年：23.5％）

2. 人口減少に対応した国土・地域づくり

- ◀全国▶
 - ◎生活サービス施設や公共交通を維持していくためには、**一定の圏域人口が必要**となる。
 - ◎都市機能と居住等を集約・誘導し、コンパクトなまちを目指すとともに、公共交通ネットワークの再構築等を行う（**コンパクト・プラス・ネットワーク**）

- ◀裾野市▶
 - ◎DID人口密度は減少し、隣接都市と比較するとDID密度はやや低い
 - ◎**市街化区域内においても、人口が減少**することが予想される。一方、長泉町に接する地域では人口が増加することが予想されている
 - ◎本市では、**市街化調整区域に全人口の約4割が居住**している。

3. 経済活動のグローバル化

- ◀全国▶
 - ◎**GDP成長率は低下**しており、日本の労働人口が減少する恐れがある。
 - ◎**外国人労働者**数は、2008年以降、増加。
 - ◎**多様で柔軟な働き方**を自分で選択できるようにする改革の推進

- ◀裾野市▶
 - ◎昼夜間人口比率は、2000年以降100を超える、**働く場としての特性**を有している。
 - ◎**大規模自動車工場の閉鎖**による、市内産業の衰退が懸念される。
 - ◎2009年以降、**市内の事業所数と従業者数はともに減少**している。

4. 観光インバウンドによる地域活性化

- ◀全国▶
 - ◎訪日外国人旅行者数は、年々増加している
 - ◎**インバウンド**の効果は徐々に地方に波及している

- ◀裾野市▶
 - ◎近年、観光交流客数は減少し、宿泊客数は横ばいの状況。周辺他都市と比べて低い数値である。

5. 進行する少子化

- ◀全国▶
 - ◎日本の総人口に占める年少人口の割合は、12.3％と世界的にみて低い。
 - ◎国内の年間出生数は、1975年以降減少。
 - ◎少子化対策として、**新婚世帯や子育て世帯に対する支援**が進められている。

- ◀裾野市▶
 - ◎近年は、自然減、社会減の状況である。
 - ◎**合計特殊出生率**は、周辺他都市よりも高い

6. 厳しい地方財政

- ◀全国▶
 - ◎歳出は、**社会保障関係費**が最も大きな割合を占めている。
 - ◎地方財政は2016年度末見込みで**約200兆円もの借入金残高**を抱えている。

- ◀裾野市▶
 - ◎歳入額は**自主財源の割合が減少**している。
 - ◎歳出額は性質別の扶助費などの**義務的経費や目的別の民生費が大幅に増加**。
 - ◎今後40年間の公共施設の維持更新費の将来推計は、直近の実績値の1.6倍。

7. 災害への対応

- ◀全国▶
 - ◎**自然災害**の多い日本において、人命を守ることやいかなる事態が発生しても機能不全に陥らない経済社会のシステムを確保し、国際的な信頼を獲得するためには、平時から事前の備えを行うことが重要

- ◀裾野市▶
 - ◎市街化区域、市街化調整区域の一部が**土砂災害警戒区域等に指定**されている。
 - ◎市街地には**富士山火山**により、避難が必要な箇所が存在する。

その他の特徴的な社会情勢

未来技術を活用したまちづくり

◎**Society 5.0**

- ・IoTやAIにより、地方が抱える課題が克服される。



◎**IoTの導入**

- ・自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながる。
- ・モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展

◎**ビッグデータの活用**

- ・利用者個々のニーズに対応、業務運営の効率化など



◎**自動車産業における新しい技術革新の潮流**

- ・ツナガル、自動化、利活用、電動化（CASE）



◎**MaaSの実現に向けた取り組み**

- ・出発地から目的地までの移動を一つのアプリで提供する等



◎**電子自治体の推進**

- ・各種行政手続がWeb上の情報交換のみでできるようになる

◎**キャッシュレス決済の加速化**

- ・観光の側面からもキャッシュレス決済の加速化が求められている

◎**シェアリングサービス**

- ・空間、移動、モノ、スキル、お金のシェア

持続可能な社会を目指した取組み

◎SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

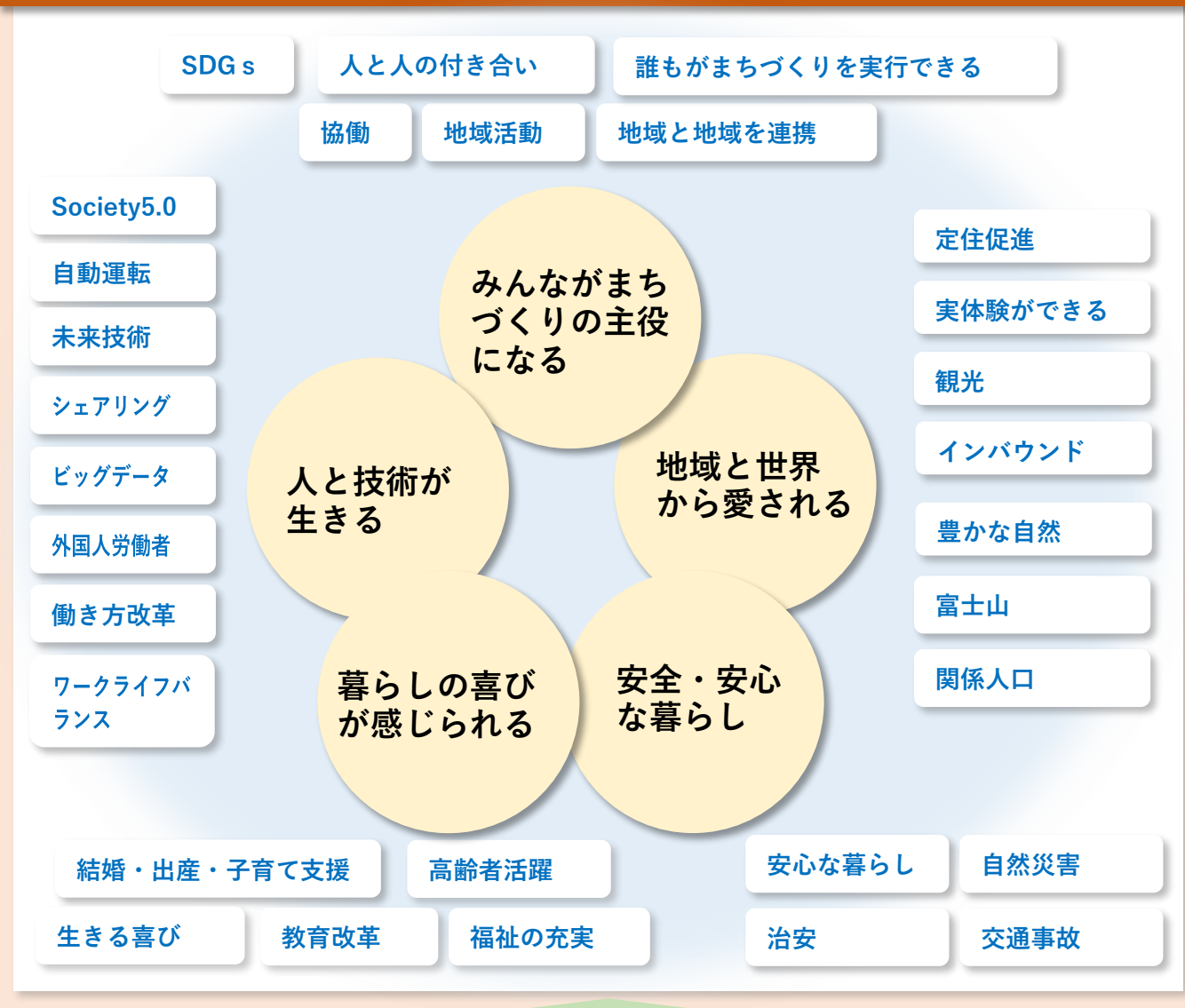
- ・持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成



第1回策定協議会（WS）で挙げられたキーワード

- ◎**未来技術**のモデル地区の創造
 - ◎**行政**の柔軟かつ迅速な対応
 - ◎自動運転の乗り物による**交通網の充実**
 - ◎**豊かな自然**を活かしたまちづくり
 - ◎**人と人が交流**できる広場と公園
 - ◎**富士山**を活かしたまちづくり
 - ◎**戦略的**な施策展開
- ◎**人と人の付き合い**を大切にできるまち
 - ◎**生きる喜び**を感じることができるまち
 - ◎**実体験**できるまち
 - ◎まちづくりを**だれもがまちづくりを実行**できる
 - ◎先進技術ではなく、**人の発想**が一番大事
 - ◎人が**行きたくなる場所**

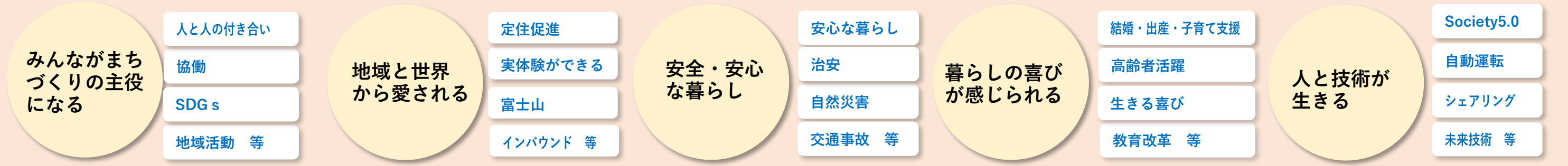
まちづくりのキーワードと方向性



まち・ひと・しごと創生の視点

地方に しごと をつくり、安心して働けるようにする	地方への新しい ひとの流れ をつくる
若い世代の 結婚・出産・子育て の希望をかなえる	時代に合った地域 をつくり、 安心な暮らし を守るとともに、 地域と地域を連携 する

まちづくりのキーワードと方向性



富士山、豊かな自然・水、田園風景、地域コミュニティ、地域経済を牽引する企業、シビックプライドを持つ市民等

裾野市の将来像

みんなの元気と調和でつくる暮らし満足都市 ※（仮）現行計画より

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の視点

地方へのひと・資金の流れを強化する

関係人口の創出・拡大、企業や個人による地方への寄付・投資

新しい時代の流れを力にする

Society5.0の実現に向けた技術の活用、SDG s、「地方から世界へ」

人材を育て活かす

地方創生の基盤をなす人材の掘り起こしや育成

民間と協働する

NPOなどの地域づくりを担う組織や企業と連携

誰もが活躍できる地域社会をつくる

女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍

地域経営の視点で取り組む

地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント。

SDG s の視点

施策の大綱（政策）

1. 健康・福祉※

2. 教育・文化※

3. 生活・環境※

4. 都市基盤※

5. 産業経済※

6. 行政経営※

※：現行計画のものを仮でとしています

基本計画（総合戦略含む）